

国語 第1学年 よんで かんじた ことを はなそう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：語り手が大事な相手に思いを伝える行動に着目し、印象に残った場面を理由を添えて話す。題名への印象と、最後まで読んだ後の感じ方を比べる。C(1)力の学習として、好きな場面のカード。自分の絵、場面でしていること、感じたことを短く記録し、友達の感想も聞く。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、選んだ場面の行動から感じたことを、教科書の箇所を示して友達に伝えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)力の姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：好きな場面のカードを残す。自分の絵、場面でしていること、感じたことを短く記録し、友達の感想も聞く。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)力に関わる学習の中身を確かめる。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：悲しいという気持ちだけになり場面が示せない。自分のペットの話だけに広がる。これについて、選んだ場面を教科書で示し、誰が何をしたかを一緒に確認する。言葉にしにくい児童は絵で選んだ場面を表し、教師が理由を聞いて文にする。死別経験の発言を求めず、無理な発表もさせない。〔知識及び技能〕(1)クとC(1)力を切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「どの場面がいちばん印象に残りましたか。そこでしていることから、どんなことを感じましたか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)力に関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：好きな場面のカードは紙に記録できる。自分の絵、場面でしていること、感じたことを短く記録し、友達の感想も聞く。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)力の評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)力で目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：家族やペットの死別体験を聞くのか。

返し：C(1)力のために私的な体験の告白は必要ない。本文の行動から感じたことを扱い、児童が話したくない内容を聞き出さない。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「どの場面がいちばん印象に残りましたか。そこでしていることから、どんなことを感じましたか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)力に関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

